

車いすの旅人・井手公正さんに励まされた
チャレンジする権利、ふつうの暮らしを選択する権利

松原葉子

(オルガン奏者, 人工呼吸器&昇降型電動車いすユーザー, 富山市)

井手公正さんのライフヒストリーのようなクオリティーの高い動画に、驚きました。

辿っていらした厳しい道…を経て、キラキラ輝いてらっしゃる井手さんの、その堂々たる生き様が伝わってきたからです。

特に、排泄のことは、極めてプライベートな事柄ですのに、パブリックな場で（しかもネット配信されるものに）お話しされていることに感服いたしました。カッコ良かったです！

思い返せば、私も TENA オムツに助けられた一人でした。

オムツ排泄に頼らざるを得なくなった日常生活。長時間の外出時には、TENA オムツを使っています。

たとえば、日帰りで富山⇄東京へ行きたい！という願いが叶ったのは、”ザ・TENA”のおかげでした。

私の場合、オムツ交換にはベッドが必要なため、出先でそれが可能な場所を探すのも一苦勞。公共トイレではほぼオムツ交換はできません。お出かけのネックになるオムツ交換事情を解決すべく、あの手この手を考えた拳句、TENA に辿り着きました。

「よし！TENA ならば、約12時間、オムツ交換なしで東京日帰り旅行が可能はず！！」と。病院に掛け合って、東京行きを許していただいたのは、画期的な妙案だったと思っています。

たかがオムツ、されどオムツ。それは、「生きる」の快・不快にかかわり、自分らしい生活を選択できるかどうかの「生き様」を左右する、最重要アイテムの一つです。

井手さんの生き生きとしたご活躍の様子を拝見し、私の小さなチャレンジもまた、オムツの選択によって可能になった行動、生きる世界を広げていく一歩になっていたことに気づかせていただいて、とても励まされました。ありがとうございます。

「障害があるから」「難病だから」「呼吸器をつけているから」
できないことの原因付けは、いくらでも簡単に挙げられます。「〇〇だから...仕
方がない」と。

ですが、それで終わってしまっただけでは、誰にも等しく与えられているチャレンジ
する権利、ふつうの暮らしを選択する権利を放棄していくことになるのですね。
もったいなく思います。

この夏、惹き込まれて一気に拝読した いまは亡き田島良昭さんのご著書『一遇
を照らす蠟燭に ~障がい者が”ふつうに暮らす”を叶えるために』を通して、
たとえどんなに弱い立場に置かれていようとも、一人ひとりに与えられている
当たり前前の権利を守り抜いていくこと、その尊さを知らされたことでした。

素晴らしい出会いの連続のゆきさんの本講座、今期もますます楽しみに受講い
たします！